

やるとやらないとでは大違い！ 地元でできる情報発信

北海道農泊セミナー

2018年12月14日

於：アスティ45(札幌)

則竹知子

自己紹介

則竹知子

ライター＆エディター＆カメラマン

愛知県名古屋市生まれ。奈良・京都で暮らした後、東京へ。

奈良女子大学文学部教育学科、体育学専攻。陸上部、薙刀部(体育会)所属。

卒業後、百貨店に就職。その後、上京。編集プロダクションにて編集＆執筆＆デザイン＆撮影までひと通りを学ぶ。釣り雑誌、トヨタ自動車広報誌を制作。

その後フリーランスに。

街歩き、アウトドア、犬、健康＆医療、ビジネス、料理などの専門誌やWEB、書籍などにて執筆。旅行が好きで、学生時代より国内を中心にあちこち出かける。

- ・ 農家民泊のサイト<https://mag.stayjapan.com/ja/>(ステイジャパン・百戦錬磨)にて熊本県人吉球磨エリア、福井県の越前・武生エリアの民泊の撮影から、取材執筆、サイトのデザイン提案まで行う。
- ・ 北海道は札幌、小樽、釧路、網走、北見、帯広、足寄、旭川など訪れる。今回、八雲の撮影取材を敢行。

八雲取材ちら見せ



はじめに

効果的な情報発信の前に

【自分を知ることから】

- 行動を起こしていますか？
- 相談していますか？
- 自分にできること・できないこと分かっていますか？
- 自分にとって地元の魅力とは？
- 外の人たちに何を伝えたいですか？

旅人の目線を知ろう ＝相手を知ること

- メインターゲットは女性
- お目当ては、食事、よい景色、地元との触れ合い、お土産。
＋α(温泉、祭り、文化・アート)
→すべてその土地ならではの。
- オリジナルグッズ・期間限定に弱い。
- 地元素材を使ったお菓子・飲食、産物、キャラクター、
ここだけのデザインはあるのか？
- 海外旅行をイメージ。



旅人は、常に探しています。
・・・何を？





地元側としての心得 ＝受け入れ態勢はできていますか？

- ようこそ！という受け入れる姿勢と態度
 - …出会った人の印象で、その土地のイメージはつくられる。オープンマインドと笑顔(´▽`)
- 地元への愛着や誇り。過度の謙遜は不要。
 - …土地の歴史や言い伝えを語れる知識をもつ。
- 行動＝自分から声掛けや挨拶を。地元での連携。尋ねられた時に紹介しあえる関係づくり。

訪れてがっかりな旅＝イメージダウン
も口コミで広まる。

取材・撮影する立場として

- ①地理や歴史的背景を知る。
- ②全体と部分を見る、客観と主観を整理する。
- ③相手が伝えたいことを知る。まず、聴く。
- ④自らも体験して、実感・納得する。
- ⑤見せ方(写真)を考える～相手が撮ってほしいもの、撮るべきもの、撮りたいもの
- ⑥伝え方(文章とデザイン)を考える～強調させること、ネガティブな部分をどうするか
- ⑦できたもの、情報を身内で共有。新しい視点、別の視点をもらう。
- ⑧SNSを活用する。

自分たちでPR・発信しよう ＝相手に知ってもらおう

今、誰もがスマホを活用している



SNS！

中身をどう作るか？

- ①町の魅力を整理し、書き出す。
- ②文章を書いてみよう。
- ③写真を撮ろう。
- ④発信の頻度、レスポンスはこまめに。

＋α

チラシ、パンフレットを作って活用する。

SNSで発信！

今は旅行者誰もがスマホを使う時代。

SNSの利点

- ・多くの人に見てもらえる。＝情報の発信、拡散、共有に最適。
- ・コストがほとんどかからない。＝自分たちですぐできる。

PRに強いフェイスブック、
つぶやき、拡散が得意なツイッター
写真の投稿に特化したインスタグラム
チャット機能が充実のラインなど。

とにかく、まずは、やってみよう。

何をどう発信する？

文章は苦手
写真が撮れない

多くの人がそう言うけれど...

本当にそうだろうか？
自分の思い込みを捨てよう。

①町の魅力を整理し、書き出す。

- どこにどんな店があり、その特徴は何か？
- どんな人が住んでいるのか？
- どんな道で町はできているのか？

歩いて楽しい町か？坂道、山道、海沿いの道、街中は？
車でないと難しい場所なのか？

- 箇条書きにするなど、書き出し、目で確認できるようにする。

②文章を書いてみようー1

- ・漠然とした表現より具体的なことを。

例：食べ物を表現する際の陥りがちな表現

「おいしい」「心を込めてつくった」「こだわりの」
「安全・安心を心掛けた」「一生懸命つくりました」
などなど。

抽象的で、どんな食べ物にも使える表現です。

意識して、独自の表現を探す

→むずかしいことはありません

②文章を書いてみようー2

例：野菜

「誰」・・・作り手はどんな人？特徴は？見た目は？

「何を」・・・収穫時期、品種、歴史や文化、栽培法、
量、栄養価、食べ方など具体的に

「どんな想いで」・・・その理由や背景、
プロセスや経緯は？

そこにしかないストーリーとなる

②文章を書いてみようー3

・文章量

何に載せるか？

フェイスブックなど、画面上で見やすい量を考える。

投稿数を増やし、1回の投稿のボリュームを小さくする。

ホームページなどの場合もだらだらと書かれたものは、読みづらい。

→最初に100文字、200文字などと文章量を決めるのも方法。

【書き方】

①まずは書けるだけ書いてみる。②強調したい部分、外せない部分を見極める ③残りは思い切ってカットしていく。

②文章を書いてみようー4

- ・文章の構成

キャッチ、見出し、本文、写真のキャプション

キャッチは、つかみ。多少おおげさな表現も。

見出しは、内容を簡潔に伝える。

本文

キャプションは、写真の説明

②文章を書いてみようー5

- ポジティブな表現を心掛ける

良い点と悪い点は表裏一体。

ほめ言葉、うれしい言葉、楽しい言葉を探す。

言葉に自分の考え方の傾向や癖が現れる。

日頃からプラスの視点を意識してみる。

③写真を撮ろうー1

ビジュアルは
大事！
言葉のイメージだけ
では伝わりにくい



③写真を撮ろうー2

- スマホで十分
専門的なカメラ機材がなくても
ノープロブレム！
- 記録写真と情感ある写真
- は別もの。どちらも大事。
記録や説明的な写真だけでは
味気ない。心を動かす写真で感動を！
- 情感ある写真とは...
撮る側の心が動いたもの・こと



③写真を撮ろうー3

- ・シャッターチャンス逃さない。

例：出来立ての料理

表情（笑顔、人の表情はころころ変わる）

動物などの動き



- ・とにかく、たくさん撮る。

何枚も撮れるので、シャッターを押した分だけ上達すると言われる。

ただし、一回一回のシャッターを大事に。ちょっぴり緊張感をもち、チャンスを押さえよう。



③写真を撮ろうー4

・アングルを考える

何を撮りたいのか。
余分なものは、
そぎ落とす。
どっちつかずの写真
を避けよう。



③写真を撮ろうー5

- ・ピントを合わせる
動いているものは要注意！



- ・片づける
ビジュアル的に余分なものは
自分で片づけることも必要。



④発信の頻度、レスポンスはこまめに。

- ・一日一度は更新する
- ・コメントに対して、素早く返答
 - ＝興味がある人を見逃さない
 - 訪れる、リピーターになる可能性あり
- ・シェアの魅力。
 - いいものはシェアされる～広がる。

+α

チラシ、パンフレットを作って活用する。

SNSがこれだけ普及する前までは、WEBだけでなく、紙媒体は大事なPRツールだった。

- 文章の書き方、写真の撮り方も、基本は同じ。
ビジュアル、デザイン性は大事
- チラシ・パンフレットは、どう活用する？
置く場所を考える・・・観光案内所だけでよいのか？
目に入らなければ読まれない。

おわりに

- ・撮ることも、書くことも楽しもう！

楽しさが表現に現れる。

独りでもめげない。志は高く！

想いを分かち合える仲間を！

一緒に作る喜びを味わおう。

- ・他人の立場（取材される側）に立って感じることも

ときには撮られてみよう。取材されてみよう。

そこから学ぶこと、気づくことが、次の取材に活かされる。

土地の魅力を伝え、
ステキな出会いを創るのは、
あなたです！



GOOD LUCK!